平成26年度第4回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成27年2月12日（木） 14：00～15：30

【場所】：熊本市現代美術館アートロフト

【出席委員】：15名出席

古賀会長、杉光副会長、阿久根委員、荒木委員、今坂委員、岩崎委員、佐竹委員、竹原委員、谷口委員、主海委員、徳山委員、鳥崎委員、水野委員、毛利委員、吉田委員

【議事要旨】

1・開会

2・議事

(1) 平成27年度まちづくり推進事業について（報告）

(古賀会長) 平成27年度まちづくり事業（案）について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成27年度まちづくり事業（案）について資料2に基づき説明

【質問・意見】

(古賀会長) 平成27年度のまちづくり推進事業について、委員の皆さんからご意見、ご質問はあるか。特に直接関わった委員もいるので、ご苦労等などをご紹介いただくと次につながる。

確認だが、町内電子地図について、自由にコピーができるなど著作権はどうなっているのか

(保健子ども課) 元のデータは、県のGPマップを使うので自由に自治体を使うことができる。地図上に各町内自治会にお願いし町内自治会の境界を引いているので、特に著作権の問題はないと考えている。

(佐竹委員) 水前寺にぎわいづくり支援事業について、前は戸井の外公園だけだったのを、今回は戸井の外公園と水前寺参道でイベントをするということだが、間が離れている。つないで誘導するというのがないと、片方ずつやっているようになると思う、そここのところの工夫があるとすごく良い。

(毛利委員) 2点ある。1点目は、電子地図が、実際使えるようになるのを心待ちにしている。児童の見守りの担当地域を決めたり、高齢者用援護のお住まいの確認、健康ウォークでもいろんな地図を作っているがこれらと組み合わせれば何通りも地域が歩けるようになる。電子地図が早く使えるとうれしい。

もう1点は、5番の井手の魅力再発見事業について、白川や井手の関心を高めることを中心に考えているとあるが、熊本市は、加藤清正公が熊本平野をどのように変えたかというところに遡っていくと、北側から南側の小島にかけて広い地域で井手と手長が組み合わせた水路で、熊本平野が潤い肥沃な平野ができたということがわかる。井手の魅力とあるなら、研究会なり実行委員会なりどのような形で再発見事業を進めていくのか、今現在で分かっている部分があれば教えてほしい。私達も関心が高いので私達の歴史研究や地名研究で活かせることがあるかと思う。これからの事業の展開について分かっている部分があれば教えて欲しい。

(古賀会長) 水前寺にぎわいづくりで空間が広がったところで「つなげる」という方法等について教えて欲しいということ、井手の魅力で学術的なこともあわせて考えられているのかという点について事務局からお願いします。

(事務局) 水前寺のまつりについて、今年度は実行委員会形式の中で、市の分ということで支援したが、開催そのものについては、水前寺のにぎわい隊のみなさんが主となって私どもがお手伝いをした。次年度については、予算については、負担金で実行委員会にお渡しし、実行委員会の中で水前寺界限ということで連携を取っていただくという考えで、既に実行委員会にもあらかじめお話をさせていただいている。そういった中で地域の広がりも含め検討していき、委員がおっしゃられますとおり、水前寺参道も含めて、

来られたみなさんが流れていくように連携をしたいと思っている。詳細については、今後、実行委員会でもつめる。

井手の魅力再発見事業について、実際、加藤清正が作ったといわれているが、詳細のところ不明、あまり詳しい方がいらっしゃらないということが現状。まずは、井手の歴史をどういうものかということを知りたいと考えている。実際、大井手を歩いてみると蛍が生息しているなど魅力があるところがたくさんあるので、井手のウォークなど歩いて魅力を再発見できればと思っている。詳細については、提案者と相談したいと考えている。

(毛利委員) 予算が 150 万円となっているが。

(古賀会長) これをどのように活用するかということもあるが、2年目以降に成果を出すという趣旨。特に当時のことを知っている高齢者の方がだんだんいらっしゃらなくなる状況の中、聞き取りや学習会、研究会など早めの準備ということもあわせて、次年度に引き継ぐということで発言させていただく。

(毛利委員) 井手に関連するが、先日2月1日に加藤清正公の熊本平野づくりにどのような考えでどんな工事をしたのかというシンポジウムがあった。そのテーマは白川と坪井川、井芹川。中央区に關係するところは、白川が非常に大きい、坪井川も井芹川も關係している。いずれも井手をとおしてまちづくりをしており、資料もあるので是非活用されたらと思う。

(鳥崎委員) 8番の電子地図の活用に関して、活用する範囲が広くてよいものだと思うが、これを校区で、高齢者の見守り、子育て、防犯の關係でマップとして使うときに必ず問題になるのは成果物の個人情報上の保護の問題がでてくる。それについて、どういう風に考えるのかということ研修会の中での項目に入ってくると思うが、それに関して、プライバシーポリシーやマニュアルを作ることができるのか、内容として、情報共有する範囲の限定など、どこまで考えているのか。これからの要望に近いが、大変いい試みなので、マニュアルなどを考えるにあたり、電子地図の活用について、活用する側が萎縮しない方向性で考えてほしい。このように使えば大丈夫ですよという形で、使いやすい方向で考えて欲しい。

(保健子ども課) 個人情報の取り扱いについて、研修の際に取り扱い基準を沿えて、成果物から個人情報が目的以外に漏れないように基準を設けて研修の際に配りたいと思っている。活用について萎縮が生じないかというご心配について、紙ベースで作るもの、電子上で作るもの、その使いわけをきちんとした形で要望に盛り込む。電子で作ったものに個人情報が入ると拡散する可能性がある、そのあたりを十分注意し、明確な形にして取り扱い基準に盛り込もうと思う。

(古賀会長) 今の質問と関連だが、対象、配布先など、どちらに配布する予定か。

(保健子ども課) 電子データは、自治協議会に1部、社会福祉協議会に1部、民生・児童委員協議会に1部と各校区に3部CDRを配布する。紙については、あわせて、自治協、社協、民協に配る予定。また、各町内の民生委員にファイリングした紙データをお配りする。電子データについては、行政側として各交流室等にも備えておきたいと考えている。ささえりあ、小学校にも配布する予定。

(竹原委員) 研修会は、区全体でやるのか、校区全体でやるのか。希望は校区毎でお願いしたい。

(保健子ども課) 研修会は、中央区を交流室単位で4ブロックに分けて、五福、中央、大江をふたつと4ブロックでやりたい。テーマは3つ程設け、子育てマップ、高齢見守りマップ、ウォーキングマップ作成の研修を行う予定。

(竹原委員) 地元の校区で、校区別にやっていただきたい。

(保健子ども課) 研修は、パソコンを利用した具体的な操作の取り扱いで、線を引いたり、ポイントを置いたりパソコン操作上の研修を行う。これを各校区に持ち帰り多岐に渡る用途で活用していただければと思う。地図は、実際にご自分の校区の電子地図上で研修を実施する。各校区からできれば3名程の方をご推薦いただき、研修に参加していただきたい。今の予定ではウエルパル3階で研修を実施する予定。

(荒木委員) 配布が、CDで配布されるとあり、何枚でもコピーできる。校区の場合、欲しいというときコピーしてもかまわないのか。コピーしてかまわないなら市のホームページに掲載して誰でもダウンロードできるような形は考えていないのか。

(保健子ども課) おっしゃるように、CDRの複製はいくらでもできる。お渡ししたデータを校区の中で活用する場合は、広げていただきたい。市のホームページに掲載し、誰でも活用できるようにするというのは現段階では考えていない。

(古賀会長) 白地図の町内割りを入れただけの地図を出すのはどんどん出しても良いと思うが、管理については、情報を書き込んだものと考えていいのか。個人情報を書き込まれたものをコピーされると困る。

(荒木委員) 白地図は誰でも利用してもいいと思うが、書き込んだものは書き込んだ人が責任をもって管理するしかない。

(古賀会長) 電子データを渡す対象が、町内自治会、社協、民協とそれぞれ守秘義務がある団体、そのあたりについて校区毎の研修とともに、各団体の研修で伝えていただく。ルールづくりをしながら研修も進められてはいかがか?今年からはじめる事業なので、試行錯誤があるかもしれないが、事務局のほうで責任をもってやっていただく。

今は、鳥崎委員の言うように活用しないといけない状況にある。今年の4月から高齢者支援、子育て支援について制度が180度変わり、地域での混乱は目に見えている。そのときにこういう地図を活用して、地域でのまちづくりや取り組みに生かしていただくためには萎縮しないで使っていただきたい、個人情報はきちんと守るというルールづくり、矛盾するような話だが、しっかり事務局で進めていただきたい。

(今坂委員) 民生委員に紙の地図を渡すというのはありがたい。民生委員を一時期やっていたので、これを使って自分の担当地域の個人情報を把握することができる。また、重要な案件は、民協の中で共有できる。帯山西校区の5町内しかない小さな校区でも、離れたところは全く地図がわからない、校区の民協でこの家の方ですよということが地図でわかれば共有し、民協でそこを見守ることができる。

研修について、会長、副会長など民協単位ではなく、年1回の民生委員の合同研修などで30分でもいいので、こういう使い方ができますよという、全民生委員を対象にやっていただきたい。民生委員は、子育てマップや高齢者のマップ、特に消防署とタイアップして要援護支援の方についてどこからどうやって助けるかときちんと話し合いをしている、その時にこの地図があればどれだけ助かるかわからない。活用の仕方について、このように使えるという事例をたくさん出してもらいたい。白地図をいきなり使ってくださいといわれても難しい。研修で、いろんな案を出していただくと有効活用できる、全体研修で必ず時間を割いて実施してほしい。

もう一点、井手の話について、井手だけでなく、毛利委員がいったように、少し歴史を盛り込みたい。いろんなものを盛り込むのは大変なので、治水に関して加藤清正や歴代の細川藩主がどのように考えてきたということ、また地名、井手など昔はこんなようにいわれたなど、地名研究家の方と一緒に、最初の研修のときに、歴史、地名のことを平行して勉強できるよう井手は取り組んで欲しい。

(徳山委員) 電子地図について、以前の会議で話をしたが、子どもが小学校に上がるときに、何町内かわからないという話をした。白山校区は転入出が多く本人もわからず、先生も地元でないからわからない。

よかったら白地図、線だけ引いてある地図で自分が引っ越してきた際にわかるようにしていただくとありがたい。先ほど「まちのわかレンダー」を転入された方にお配りになるということでしたが、その際、

自分の住んでいる校区だけでもどこの校区でどこの町内か、町内自治会加入や、自分自身がどこの町内かわかるとありがたい。

(毛利会長) 3番の校区カルタの制作に係わってきた。校区カルタの制作を一緒にやってきているが、(一新校区で)一年間の間でも名所が新たに生まれた。読み札は300以上の応募があり、今その中から絞込みができてきた。去年の10月以降に、これまで温めていた3か所が実現して新名所となった。読み札を選んでいるところだが、3つの名所を一部いれかえるということで会の中で意見がでており、まだカルタが完成してなくてよかったと思う。新町獅子舞の常設展示場ができたり、昔の長崎書店のイメージで長崎次郎書店が復活したり、るろうに剣心のモデルになった河上彦斎の生誕の地の標木ができた。今まで私達が早く作りたいたいと思っていて、実現したのが、読み札ができた後だったが、3つを読み札に入れる。

先程いただいた資料で、絵札について写真が中心になっている。写真もいいが、私は、写真と手描きの組み合わせでいきたい。14年前に地蔵カルタを作ったが、全部写真だった。写真だけだと面白みや親しみがなく、味気ないという意見が地蔵カルタでもあった。なるべく校区のカルタは、親しみがあ面白みがあり、自分達の身近なものだと雰囲気としてできるように、民話調の絵札をいれたいが、そういうことを入れていっていいか。

(まちづくり推進課) 先ほど少し説明不足だったが、この資料の中の写真は、この写真をもとに事業者の方に手上げ方式でコンペに参加していただき、絵札を書いてもらう。写真ではなく完成形は絵札。タッチについて、昔ながらの絵かリアルな絵かは事業者が提案するので、中央区役所と読み札を書いていただいた地元の方に入っていたいただいた選定委員で好きなものを選定する。

(谷口委員) 電子地図について確認だが、ささえりあにも配布されるということだがCDRか。私達は、民生委員と自治会長と見守りなどをやっているのでおおいに情報共有をしていかないといけない。どういう風に活用していくか行政の担当課と話をしていきたい、中央区と一緒に勉強会をしていただきたい。

(阿久根委員) 帯山西校区で、26年度中央区「ぼうさいキャラバン」でお世話になった。いろんな打合せをして細かく希望をきいていただき実施した。お尋ねだが、来年以降もこのような打合せで内容を決めて実施していくのか、また、一度やった校区がもう一度お願いできるのか、いろんなところを回っていくのならば一度実施した校区はできないのか。

中央区お宝探検事業は、27年度は3校区を予定され、校区カルタと連携とあるが、校区カルタは資料をいただきイメージがはっきりし、お宝探検事業も自分の中でイメージができたような気がするが、名所旧跡を回るようなお宝探検をする場合、カルタで出てきたものと連動したお宝探検となるのか、またそこから考えて新しくやっていくのか。

(総務企画課) 「ぼうさいキャラバン」についてお答えする。先ほど実施する際、委員の方がおっしゃったように先ず校区の方のご希望をきき、なるべく要望にあった形でやっていきたいと考えている。

一度やったところではできないのかという質問について、巡回形式で実施しているので、中央区の校区はたくさんあるので、先ずは、実施していないところを優先と考えている。キャラバンは、全体としては、巡回なので、区の予算を同じところに使うというのは好ましくない。

実施された校区で次にこういう形でというご要望があれば、「ぼうさいキャラバン」の業務を受けてご協力いただいたNPOの団体と個別に相談していただき新しい形で作っていただくという方法もご検討いただきたい。

(まちづくり推進課) お宝探検事業についてはやり方は自由、今年度、例えば一新校区はいろんなところを回った。校区の方だけでなく市内全域に公募し実施した。

大江校区は、区と一緒にではなく、校区で自らされた。今年度は3校区を予定していたが、自ら実施される校区が多く中央区の事業費を使ってされたところは1校区のみ。基本的には費用はかからないので、ご相談いただければ、まちづくり推進課の職員や、校区の団体の方と一緒にさせていただく。また、どこを

回るかどうかといった方を対象にするかで内容が変わってくるし、また実際に回らなくてもお宝を発見し、カルタ制作につながるという組み立てもできるので、まずやりたいということがあればまちづくり推進課にご相談いただきたい。

(岩崎委員) 要望だが、電子地図は、鳥崎委員がいわれるように、成果物の個人情報や、プライバシーポリシーをどうするのか、その基準をいかにきちんと伝えていくのかということが大事。電子地図は、全国的にも取り組みをはじめられているところなので、是非、中央区が先進となるように、モデルとなるくらい、プライバシーの守り方についても研究してもらいたい。

井手の魅力発見やお宝探検事業など中央区の魅力を掘り出していく事業が色々出てきているので、いかに区民の皆さんに伝えるか、個々の事業で終わりではなく、区よりは全戸に配布されているということなら、そこに井手の魅力や中央区のその校区にお宝があるということが伝わり、自分の校区でなくとも、こんなに素敵なものが中央区にあり誇りに思えるというようにつなげてほしい。せっかく素敵なことをしていて、例えばアクティブシニア増殖プロジェクトでこんなことをしている、中央区にこんな人がいる、こんなところがあると発信をしていただきたい。

(毛利委員) ふれジョブでリーフレットができて、小・中学校へ配布していただき、福祉課にも設置しているということだが、ふれジョブ対象の子ども達は5.6年生から高校までであるので、できたら高校・特別支援学校にも送ってほしい。

(古賀委員) 熊本市の特別支援教育は全国からお褒めをいただいている。中央区として毛利委員のご意見を検討してほしい。

井手の魅力についてご意見、ご要望をいただいたが、提案者は3年前に地域の思い入れの中から提案された。少しずつ広がってきたもので、あんまり過大なことを1年目から求めると気の毒。誰もがちょっと思いついたことをひろげていくいいモデルケース。今回作業部会は設置していないが、機会があれば今日ご発言いただいた方、知識をお持ちの方に事務局からご相談しながら、せっかく広がった企画なので、今後とも暖かく見守っていただき、井芹側、坪井川と並ぶような総合的な並びができればいい。来年1年は暖かく見守っていただければと思う。

他に事務局から何かあるか

(事務局) 懇話会の委員の改選の説明。

閉会